

街路事業の再評価概要書

()は当初計画時

		番 号	3
		事業主体	栃 木 県
事業名	街路づくり事業		事業所管課 県土整備部 都市整備課
路線・河川名	宇都宮都市計画道路 3・4・202号 <small>こぶがはらみやどおり</small> 古峯原宮通り外1路線 (主要地方道宇都宮鹿沼線)	事業箇所名	鹿沼市 <small>せんだ</small> 千渡
事業区間	<small>かぬましようわのまち</small> 鹿沼市上野町～ <small>せんだ</small> 千渡	事業延長	3・4・202号 <small>こぶがはらみやどおり</small> 古峯原宮通り 1,734m 3・4・203号 <small>かぬまかんじょうせん</small> 鹿沼環状線 226m
S40 都市計画決定 (S46、H12、H24 年度変更)	H19 年度 事業化	H19 年度 用地着手	H22 年度 工事着手
事業期間	(H26) H19 年度～H29 年度	事業進捗状況	基準年次：【平成 26 年度末時点】 進捗率
[うち用地補償費]	[33.5(28.2)億円]	[うち用地補償費]	[32.4 億円] [97%]
全体事業費	43.0(35.0)億円	既投資事業費	38.9 億円 90%
事業概要			
<p>宇都宮都市計画道路3・4・202号古峯原宮通りは、鹿沼市上日向交差点から宇都宮市境に至る鹿沼市中心部を東西に横断する延長約8.0kmの幹線道路であり、「鹿沼市都市計画マスタープラン」において東西の広域連携軸を構成する広域連絡道路として位置づけられている。</p> <p>現道である主要地方道宇都宮鹿沼線は、鹿沼市と宇都宮市の中心部を直結し、地域間の物流や通勤等の日常生活を支える幹線道路であり、第三次緊急輸送道路にも指定されている。また、事業箇所に並行する区間は、多くの商業施設が隣立し、自動車交通をはじめ、路線バスも多く、通学路に指定されているなど、鹿沼市の生活を支える重要な役割を担っている。</p> <p>しかし、交通量が多いことから、慢性的な交通渋滞が発生し、朝夕の通勤通学時間帯は自動車、自転車・歩行者が錯綜するという非常に危険な状況にある。</p> <p>このため、鹿沼市と宇都宮市との道路ネットワークを強化し、両市の連携強化と交流促進を図るとともに、鹿沼市内の安全・安心で円滑な交通を確保するため、バイパス整備を行うものである。</p>			
事業を巡る社会経済情勢の変化等			
特になし			
事業の投資効果			
1 費用対効果分析結果		【総便益(B)】	【総費用(C)】
(1)事業全体 B/C = 1.4		64.9億円	46.6億円
(2)残事業 B/C = 12.2		64.9億円	5.3億円
2 事業の整備効果等			
<ul style="list-style-type: none"> ・都市間（鹿沼市～宇都宮市）の連携強化 ・歩行者・自転車の安全で快適な通行空間の確保 		<ul style="list-style-type: none"> ・現道における渋滞緩和 ・救急救命活動や都市防災機能の強化 	
事業の進捗状況等			
1 事業の進捗状況			
<ul style="list-style-type: none"> ・現在、本事業区間の用地取得及び工事を推進中。 ・本事業区間の東側については、道路事業により平成 26 年度事業化。 			
2 今後の事業進捗の見込み			
<ul style="list-style-type: none"> ・今後も用地取得を推進し、工事に必要な一連区間の用地が確保できたところから順次工事を進め、平成 29 年度を目標に事業完了を図る。 			
コスト削減等			
1 コスト削減方策			
<ul style="list-style-type: none"> ・鹿沼市雨水幹線事業と連携することにより、道路排水の流末処理に係るコストを削減 			
2 代替案立案等の可能性			
<ul style="list-style-type: none"> ・バイパス事業で既に約 9 割の用地を取得していること、鹿沼市の都市の骨格を形成する東西の「広域連絡道路」として、都市計画の諸手続きを経て整備していることから、現計画は最適である。 			
事業の対応方針(案)		現計画で事業を継続する。	

事業箇所（位置図・概要図）

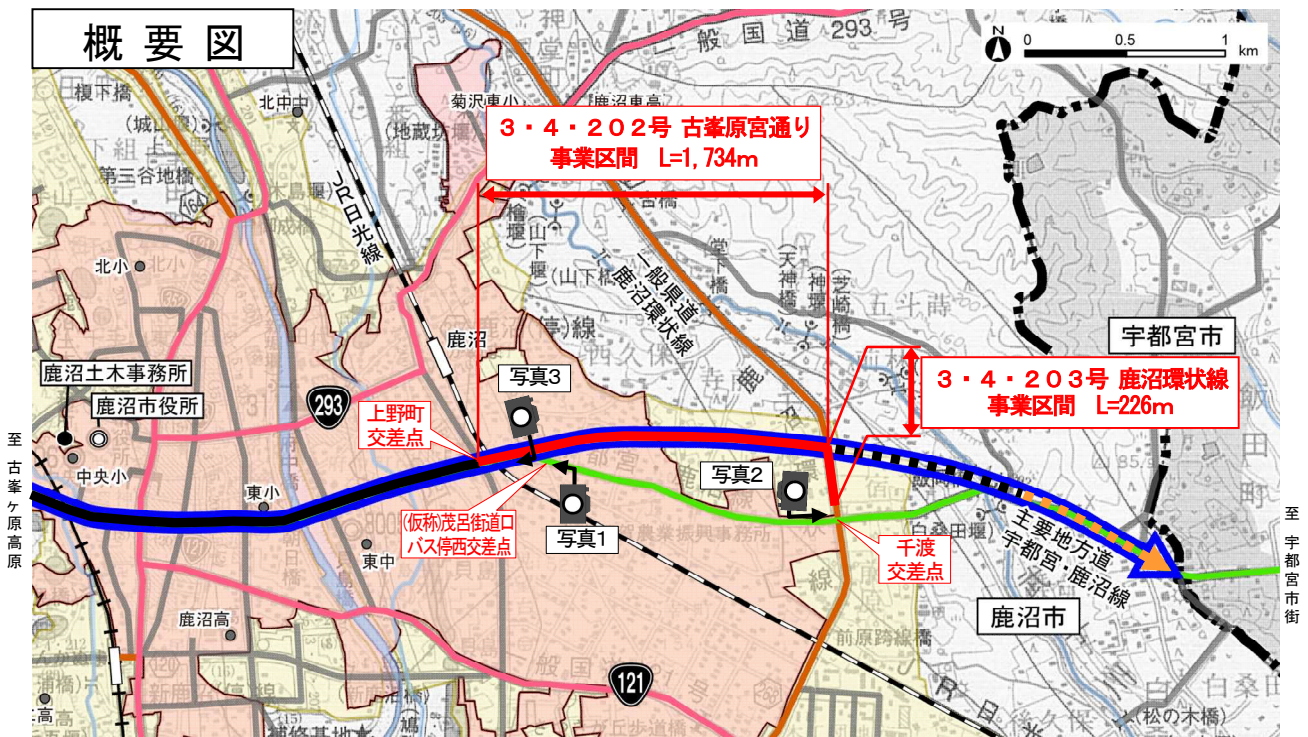
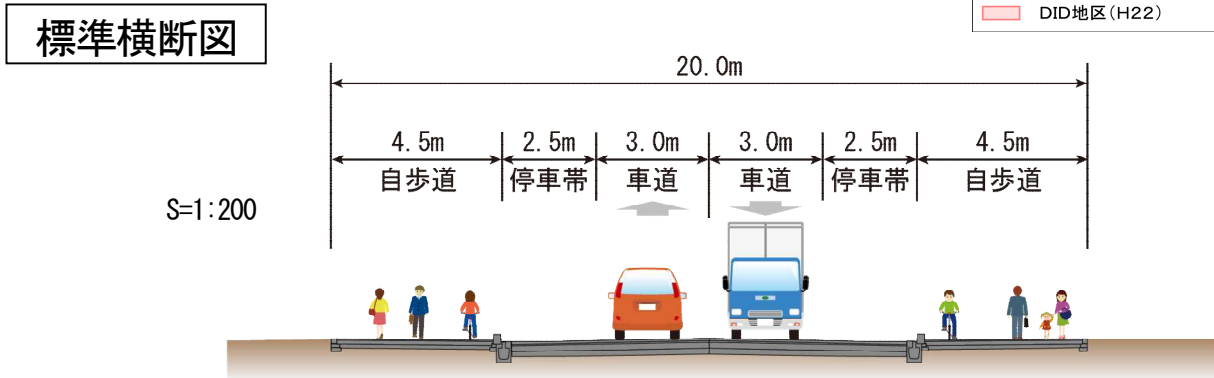
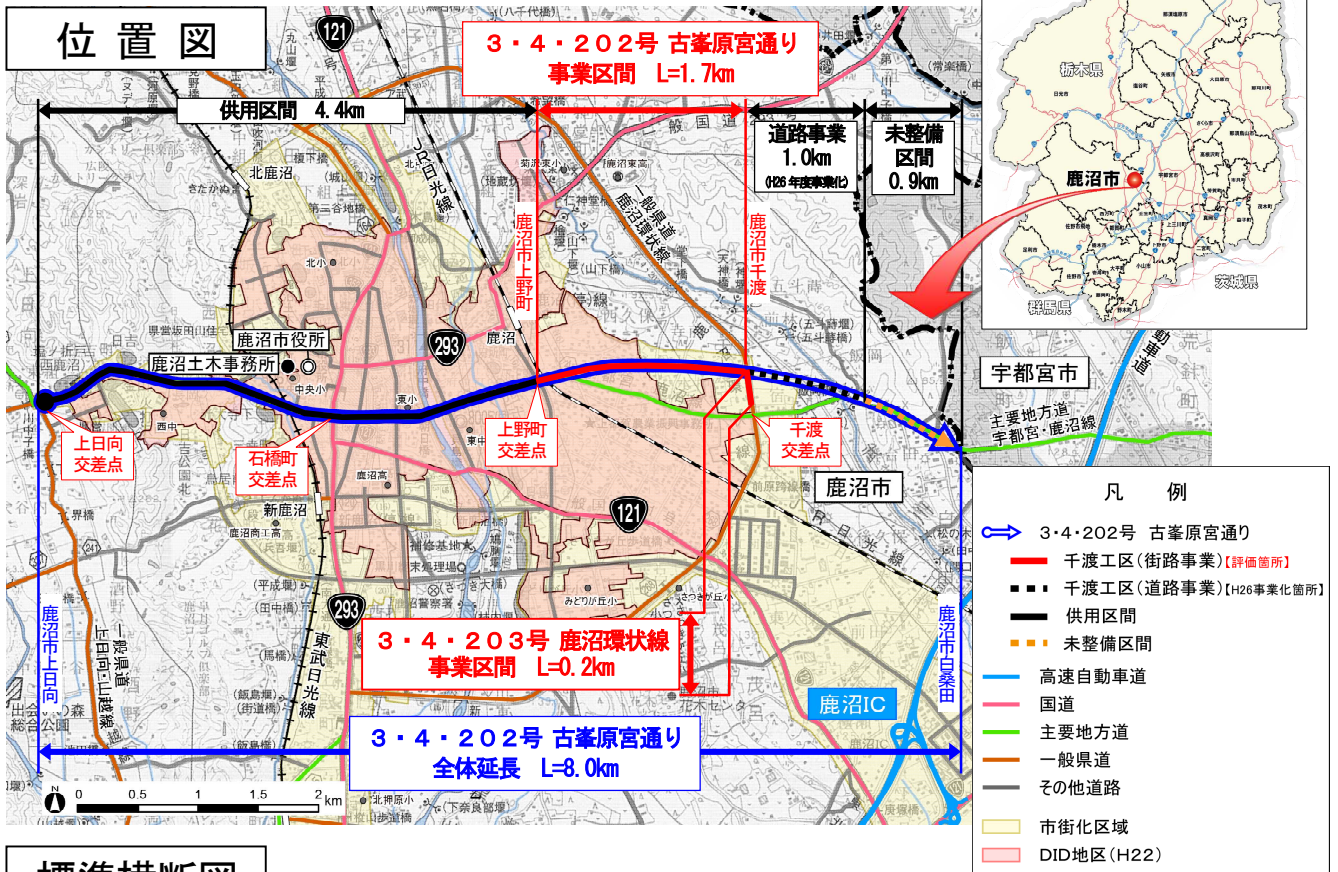




写真1：現道渋滞状況（(仮称)茂呂街道口バス停西交差点：西進方向）



写真2：現道渋滞状況（千渡交差点：東進方向）



写真3：通勤通学時間帯の交通状況（東町1バス停付近：西進方向）